

**豊橋市ごみ減量の  
推進に関する提言  
(案)**

**豊橋市ごみ減量推進検討委員会**

**令和2年2月**

# 目 次

|                      |    |
|----------------------|----|
| はじめに                 | 1  |
| 豊橋市のごみ減量施策に対する提言     | 2  |
| 1. リサイクル率の向上に向けて     | 2  |
| 2. 事業系ごみのリサイクルの促進    | 3  |
| 3. 家庭系ごみの有料化         | 3  |
| 今後に向けて               | 4  |
| 資 料                  | 5  |
| ○ 豊橋市におけるごみの現状       | 6  |
| ○ 市民アンケートから見える市民意識   | 9  |
| ○ 豊橋市ごみ減量推進検討委員会委員名簿 | 13 |
| ○ 検討経過               | 14 |

## はじめに

豊橋市は、資源循環型社会の形成を目指し、廃棄物総合計画のもと、ごみの減量とリサイクルの推進に向けて様々な施策に取り組んでいます。

また、前回、平成 24 年度に開催されたごみ減量推進検討委員会における提言では、「レジ袋有料化」、「資源ごみのステーション収集」、「ビンカンボックスによるびん・カンの回収」、「事業系ごみの減量・資源化の推進」、「家庭ごみ有料化」という 5 つの項目があげられ、それぞれの項目に対する対応策に取り組んできました。加えて、指定ごみ袋制度の導入や生ごみの分別・リサイクル、ごみ分別促進アプリの導入など、その時々の流れに合わせた施策を柔軟に取り入れることで、市民 1 人が家庭から排出する 1 日当たりのごみ量が全国並みの水準まで改善しました。

さらに、リサイクル率は全国より高く、資源を除いた市民 1 人が家庭から排出する 1 日当たりのごみ量が、国が掲げる令和 6 年度の目標値よりも少なくなり、高い水準に達しています。

しかしながら、ごみ処理費用の削減や最終処分場の延命、廃棄物に対する世界的な潮流など、ごみを取り巻く状況を鑑みると、更なるごみの減量とリサイクルの推進に取り組む必要があります。

ごみ減量推進検討委員会は、ごみを取り巻く現状の中で、ごみ減量とリサイクルの推進につながるものとして 3 つの項目を取り上げ、市民、事業者、各種団体・学識経験者等、様々な立場からの意見を交え、提言をまとめました。この提言を受けて、豊橋市がごみの減量とリサイクルの推進に向けた施策をさらに推進していくことを望みます。

# 豊橋市のごみ減量施策に対する提言

## 1 リサイクル率の向上に向けて

リサイクル率は、焼却や埋立処理するごみの量を減らしたり、リサイクルするごみの量を増やすことによって向上します。リサイクルを推進すれば、今後更新予定の焼却処理施設の規模を縮小できるとともに、埋立処理量の削減による最終処分場の延命化が図られ、その結果、ごみ処理にかかる経費の削減につながります。

リサイクル率の向上に向けて、特に古紙のリサイクルを促進するため、古紙回収量を増やすには、古紙の分別に対する意識啓発と古紙の持ち出し機会を拡充することが必要です。

### 委員会からの提言

家庭系ごみの排出や処理に関する豊橋市の現状と、それを踏まえ豊橋市がこれまで行ってきた各種取り組みやごみに対する市民意識を把握するなかで、リサイクル率の向上に向け、本委員会では、下記の取り組みに豊橋市が積極的に取り組むことを求めます。

#### 【啓発】

- ・市民がどんな情報を求めているかを的確にとらえた上での、チラシやSNSなど時代に合った方法による啓発活動
- ・効果的に情報を伝えるための、伝えたい内容にポイントを絞った情報発信
- ・ごみ分別や減量、リサイクルの推進がもたらす効果の周知
- ・外国人や自治会未加入者への、ごみ分別やリサイクルの推進に向けた啓発活動
- ・「古紙とは何か」、「どのように出せばよいか」といった市民が求める情報に焦点を当てた啓発活動
- ・幼児から高校生・大学生まで切れ目のない環境教育
- ・青年層や高齢者層など大人世代も含めた生涯教育

#### 【制度等】

- ・ごみ減量・リサイクルに取り組む各種団体との連携強化と情報共有
- ・ごみ減量・リサイクルに対する市民意識の向上を促す表彰制度の充実
- ・地域の自助努力を促すための行政としてのフォローアップ
- ・古紙の持ち出し機会増加に向けた、地域資源回収の活性化、民間事業者による取り組みの活用と行政自ら取り組む行政回収の導入などを併用した多角的な取り組み

## 2 事業系ごみのリサイクルの促進

事業系ごみのリサイクルには、まず焼却処理されるごみを減らすことが必要です。市を介さない民間事業者間でリサイクルを進めれば、市が直接処理するごみ量を減らすことができます。

また、リサイクルの促進には、排出事業者の意識を向上させるとともに、リサイクルにつなげる環境整備が必要です。

### 委員会からの提言

事業系ごみの排出量そのものを減らすことは難しく、焼却量を減らすため、可燃ごみからの古紙のリサイクルを第一に、分別に対するメリットを提示しながら、排出事業者へ働きかけることを求めます。

## 3 家庭系ごみの有料化

家庭系ごみの有料化は、ごみ処理にかかる費用の一部を市民が直接負担することで、市民自らのコスト意識を高め、家庭系ごみの排出量そのものを減らす行動につなげることを第一の目的とした取り組みです。有料化するごみの種類によるものの、有料化によりごみの排出量そのものが減少し、そのことがごみ処理量の減少につながります。

ごみ処理には多くの経費を要しますが、ごみ減量が進めばごみ処理経費が削減できます。また、ごみ処理量の削減は、令和6年度に更新を予定している焼却処理施設を始めとしたごみ処理に関する設備全体の小規模化につながるとともに、埋立量を減らすことによる最終処分場の延命にもつながり、結果として、ごみ処理経費を削減することができます。

なお、経済的な負担を伴う家庭系ごみ有料化の導入には、市民への十分な説明と理解が不可欠です。

### 委員会からの提言

家庭系ごみ有料化は、ごみの減量やリサイクルを後押しするような施策に多角的に取り組んでもなお、ごみの減量やリサイクルの推進がなされなかった場合の有効な手段として、十分な市民理解を得たうえで導入の可否を判断することを求めます。

## 今後に向けて

ごみの減量やリサイクルの推進に向けて検討するに当たり、豊橋市のごみの現状や、ごみを取り巻く全国的な情勢、それらに対する市の取り組みについて確認しました。豊橋市として、様々な施策に取り組んでいること、ごみが減り、リサイクル率が上がるなど成果を上げていることが分かりました。

一方で、市民のニーズに合った施策に取り組んでいるにもかかわらず、市民への周知が十分でない事柄や、市民のニーズに答えきれていない事実が市民アンケートや委員会での議論の中から見えてきました。

また、全国的なごみ処理を取り巻く課題については、「プラスチックの資源循環」や「食品ロス対策」、「高齢化社会を見据えたごみ施策」といったキーワードがあげられ、現状すでに取り組まが行われており、継続すべきものがある一方、市の特徴に合わせたより一層の展開が必要なものもあります。豊橋市としても、国や社会の動向を注視しながら、豊橋市に合った取り組みを進めていく必要があります。

将来世代が過度な経済的負担を負うことなく、「きれいで住みやすい豊橋」に住み続けられるように、今の世代が積極的にごみの減量やリサイクルに取り組むとともに、常に変化するごみを取り巻く社会情勢に対し、よりよい対策を図れるような道筋をつける必要があります。

そして、これらの実現は、市民、事業者、行政の協働が不可欠です。

ごみの現状や課題、それらの解決に向けた豊橋市の施策や長期的な姿勢について、市が市民や事業者へ十分に問いかけ、市民、事業者、行政が協働して施策に取り組む視点をもつとともに、時代に合った柔軟な視野をもって、ごみの減量とリサイクルの推進に向けて取り組むことを求めます。

## 豊橋市ごみ減量推進検討委員会委員名簿

令和2年2月7日現在

| 役 職   | 氏 名    | 備 考                       |
|-------|--------|---------------------------|
| 委 員 長 | 稲田 充男  | 豊橋創造大学 副学長<br>(保健医療学部 教授) |
| 副委員長  | 山田 剛史  | 豊橋技術科学大学 環境・生命工学系 講師      |
| 委 員   | 川本 恭久  | 豊橋市自治連合会 副会長              |
|       | 長崎 正敏  | 東三河廃棄物処理事業協同組合 代表理事       |
|       | 稲垣 ローザ | NPO法人ABT豊橋ブラジル協会          |
|       | 古地 英明  | 豊橋市社会福祉協議会                |
|       | 夏目 美鈴  | 530運動環境協議会 副会長            |
|       | 鈴木 真理子 | 豊橋女性団体連絡会 副会長             |
|       | 鈴木 幸宏  | 公募                        |
|       | 長坂 英樹  | 公募                        |

## 検討経過

| 開 催   | 開催日                | 主な内容   |
|-------|--------------------|--|
| 第 1 回 | 令和元年 6 月 27 日(木)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 趣旨説明</li> <li>○ 豊橋市廃棄物総合計画について</li> <li>○ 豊橋市のごみ処理の現状と今後の課題について</li> </ul>  |
| 第 2 回 | 令和元年 8 月 19 日(月)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市民アンケートについて</li> <li>○ 豊橋市のごみ減量に関する取り組みについて               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リサイクル率向上に向けて</li> <li>・ 現在までの取り組み</li> <li>・ 古紙のリサイクル状況</li> <li>・ 生ごみのリサイクル状況</li> <li>・ 今後の取り組み</li> </ul> </li> </ul> |
| 第 3 回 | 令和元年 10 月 24 日(木)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ リサイクルの推進について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭系ごみのリサイクル(古紙・生ごみ)</li> <li>・ 事業系ごみのリサイクル</li> </ul> </li> <li>○ 家庭系ごみの有料化について</li> <li>○ ごみ処理における全国的な課題について</li> </ul>                                |
| 第 4 回 | 令和元年 11 月 25 日(月)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 提言書(案)について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リサイクル率の向上に向けて</li> <li>・ 事業系ごみのリサイクルの促進</li> <li>・ 家庭系ごみの有料化</li> </ul> </li> </ul>   |
| 第 5 回 | 令和 2 年 1 月 17 日(金) | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 提言書(案)について</li> </ul>   |
| 第 6 回 | 令和 2 年 2 月 7 日(金)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 豊橋市への提言</li> </ul>  |

# 資料

## ○豊橋市におけるごみの現状

### (1) ごみの排出量

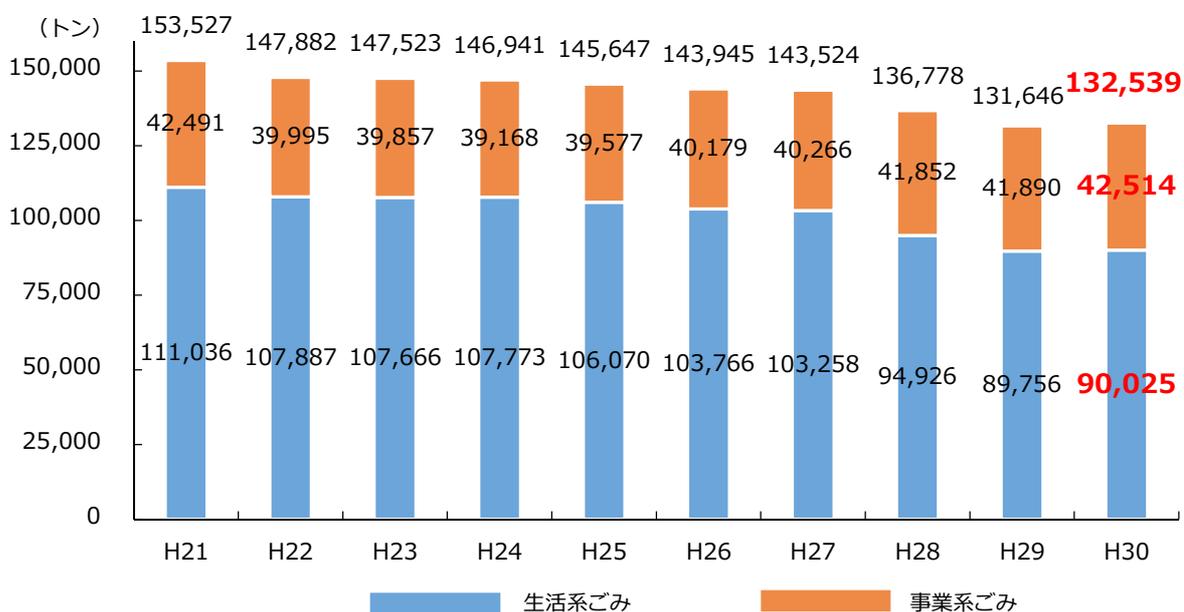


図1. 豊橋市におけるごみの排出量の推移

豊橋市のごみの排出量は平成21年度から平成27年度にかけて小幅な減少傾向を示していましたが、平成28年度の指定ごみ袋制度の導入、平成29年度の生ごみ分別収集の開始をきっかけに、大幅に減少しました。

しかしながら、平成30年度は台風被害によるこわすごみなどの増加や手数料改定に伴うかけ込みによる事業系ごみの増加により、微増しました。

### (2) 1人1日当たりの生活系ごみの排出量

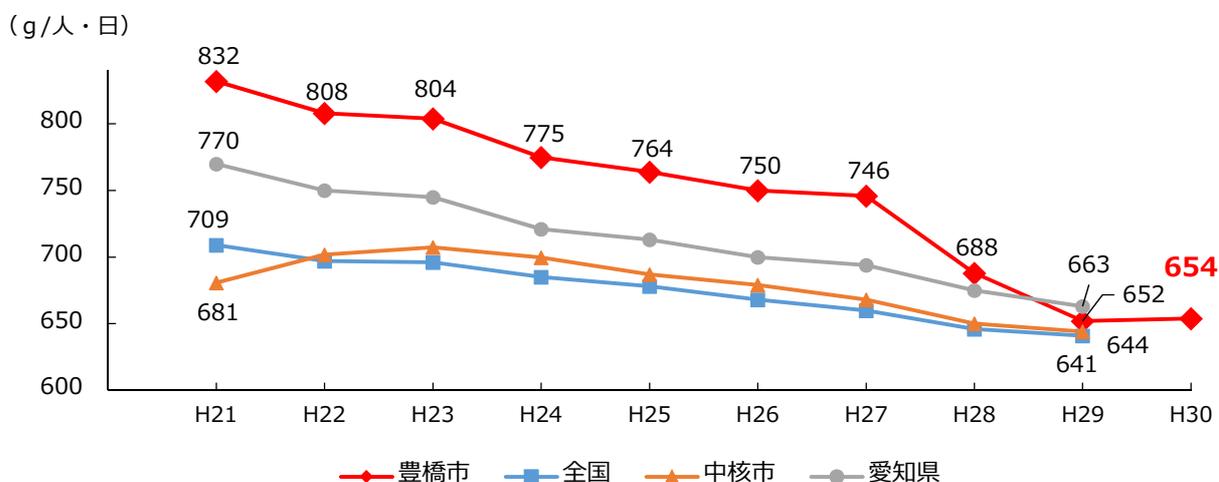


図2. 1人1日当たりの生活系ごみの推移

豊橋市の1人1日当たりの生活系ごみの排出量は、平成27年度までは全国や他都市と比較して多い傾向を示していました。しかし、平成28年度の指定ごみ袋制度の導入、平成29年度の生ごみ分別収集の開始をきっかけに大幅に減少し、全国や他都市とほぼ同等の水準となりました。

### (3) リサイクル率

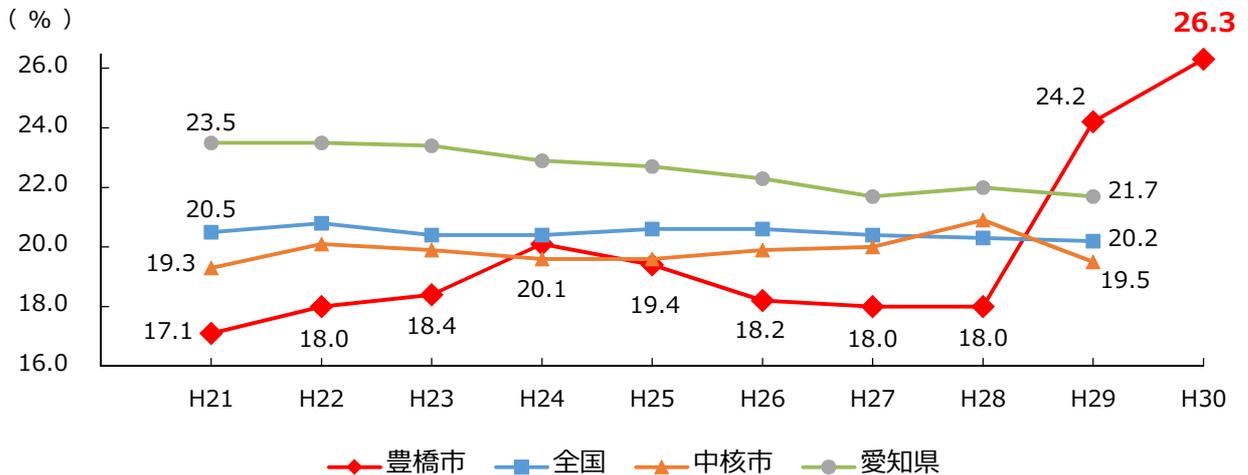


図3. リサイクル率の推移

豊橋市におけるリサイクル率は、平成28年度までは全国や他都市と比較して低い傾向を示していました。しかし、平成28年度の指定ごみ袋制度の導入、平成29年度の生ごみ分別収集の開始をきっかけに大幅に上昇し、全国、他都市よりも高い水準となりました。

### (4) ごみ処理経費

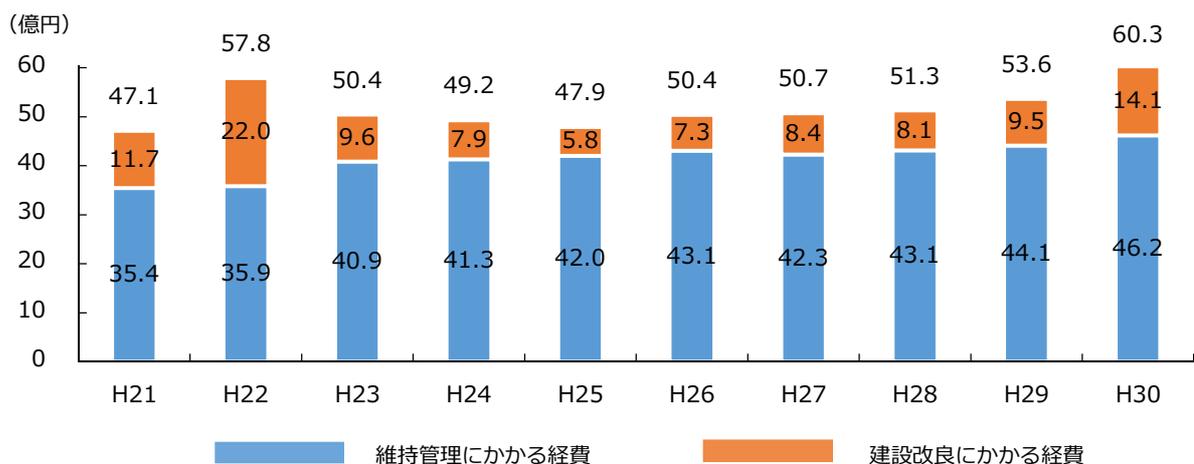


図4. ごみ処理にかかる経費の推移

豊橋市におけるごみ処理経費は、ここ10年ほどは年間50億円程度で推移しています。近年は新施設建設の進捗や施設の老朽化、生ごみ分別の開始などにより増加傾向にあります。

## (5) もやすごみの組成分析

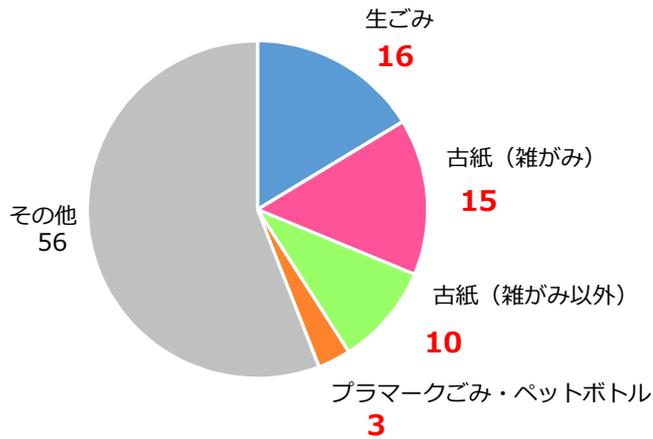


図5. 平成30年度もやすごみの分別状況 (%)

もやすごみのうち約4割は、分別することで本来リサイクルできる資源であり、平成30年度は生ごみ7,600t、古紙11,600t（うち雑がみ7,000t）、プラマークごみ・ペットボトル1,500tがもやすごみとして排出され、焼却処理されたと考えています。

## (6) 事業系ごみの排出状況

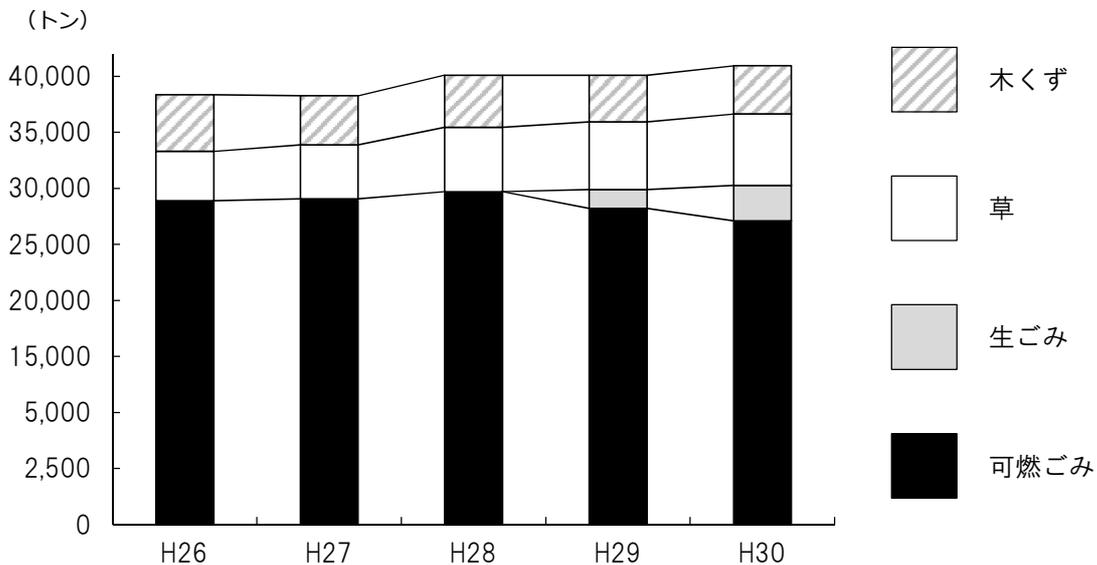


図6. 事業系ごみの排出状況

事業系ごみは事業活動の盛衰に影響を受けやすく、微増傾向です。

事業系ごみの内訳は、可燃ごみが全体の約6割と最も多く、草（約6,000t）、木くず（約4,000t）、生ごみ（約3,000t）の順に続きます。直近5か年の推移は、可燃ごみが減少傾向を、草と生ごみが増加傾向を示し、木くずは横ばいです。

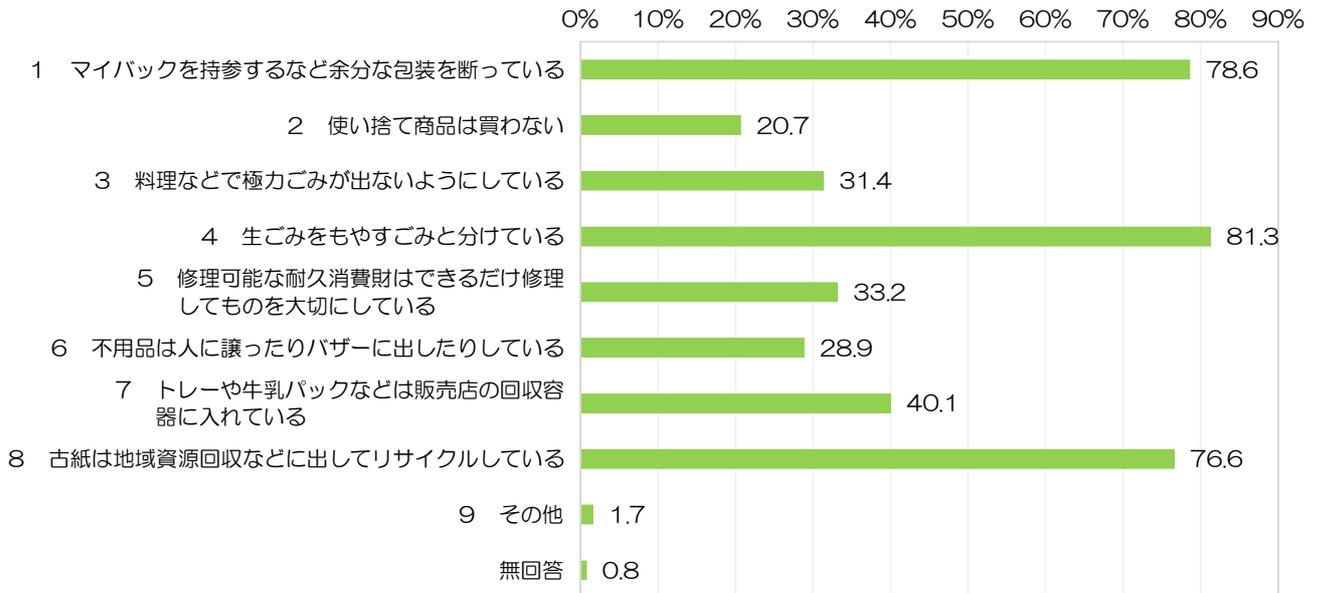
なお、可燃ごみの減少はバイオマス利活用センターの稼働（平成29年10月）に伴う、生ごみの分別が主な要因です。可燃ごみと生ごみの合計を平成28年度以前の可燃ごみと比べると、増加傾向を示しています。

## ○市民アンケートから見える市民意識

豊橋市廃棄物総合計画の策定及び本市のごみ減量とリサイクルの推進に向けた検討に役立てるため、平成31年4月に、市内在住20歳以上の1,500人を対象にしたアンケートを実施し、599件を回収、回収率は39.9%でした。

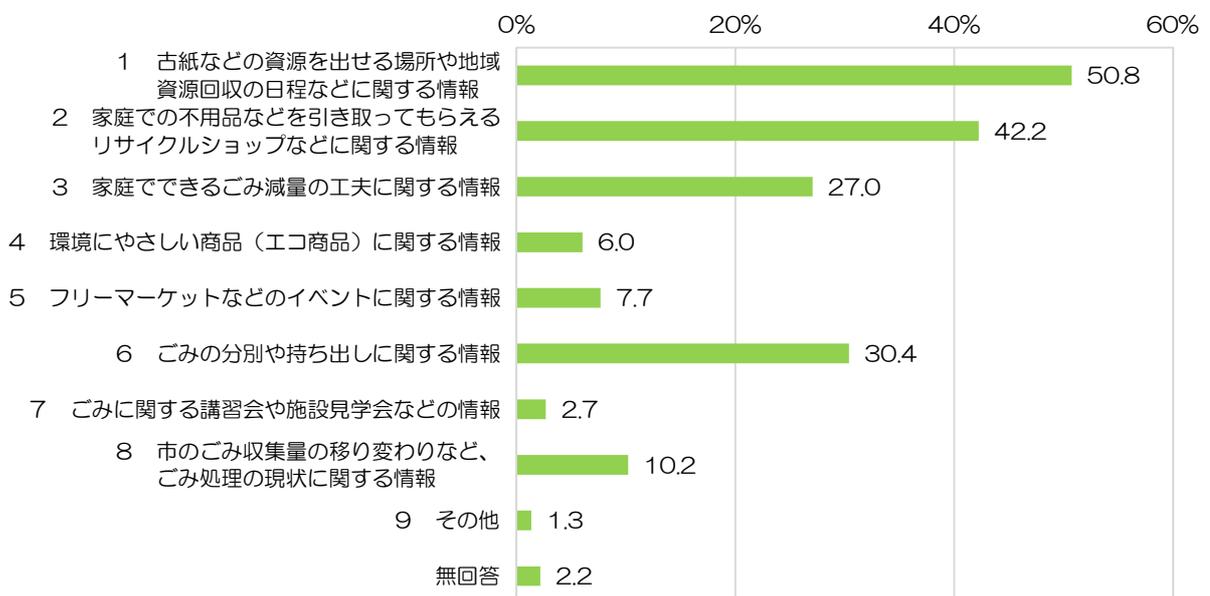
主な回答結果とそれに基づく分析は下記のとおりです。

### ● ごみ減量とリサイクルに対し行っている取組について【あてはまるもの全て】



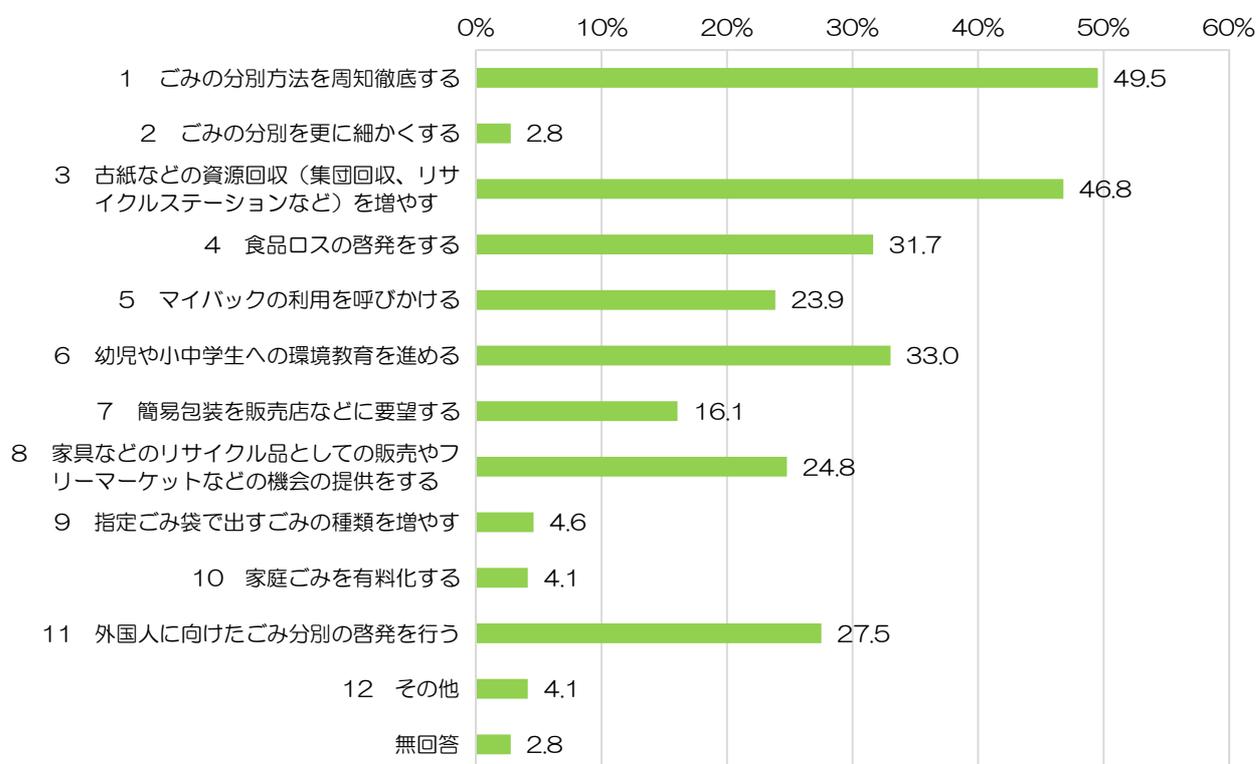
「生ごみをもやすごみと分けている」、「古紙は地域資源回収などに出してリサイクルしている」と答えた人が約8割あり、生ごみや古紙の分別が着実に行われていることが伺えます。しかし、世代が下がるにつれてその割合が下がる傾向がありました。

### ● 今後必要だと思う情報について【主なもの2つ】



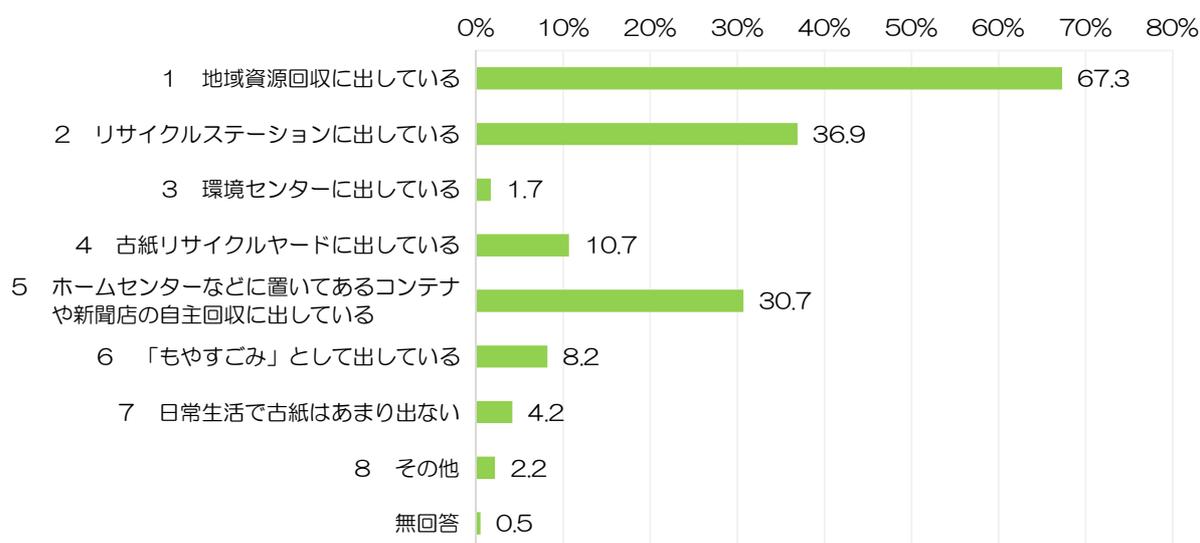
「古紙などの資源を出せる場所や地域資源回収に日程などに関する情報」と答えた人が最も多く、約半数を占め、古紙のリサイクルに関する関心の高さが伺われます。

● 充実が必要な取組について【主なもの3つ】



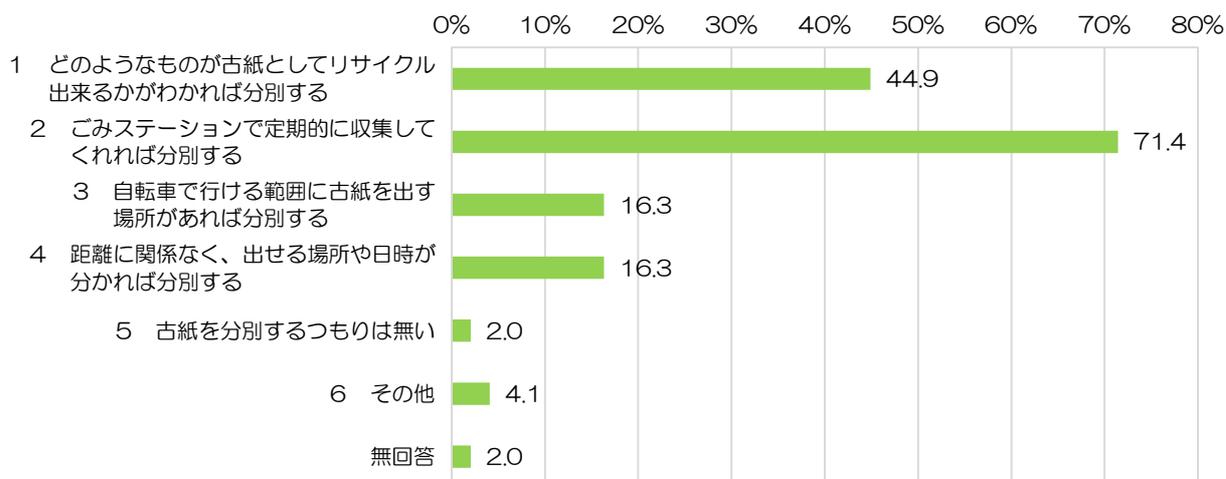
「ごみの分別方法を周知徹底する」と答えた人が約5割と最も多く、「古紙などの資源回収を増やす」と答えた人が次いで多い結果となりました。古紙排出先の確保を進めていますが、十分とは言えないと感じていることが伺われます。

● 古紙の処分の仕方について【主なもの2つ】



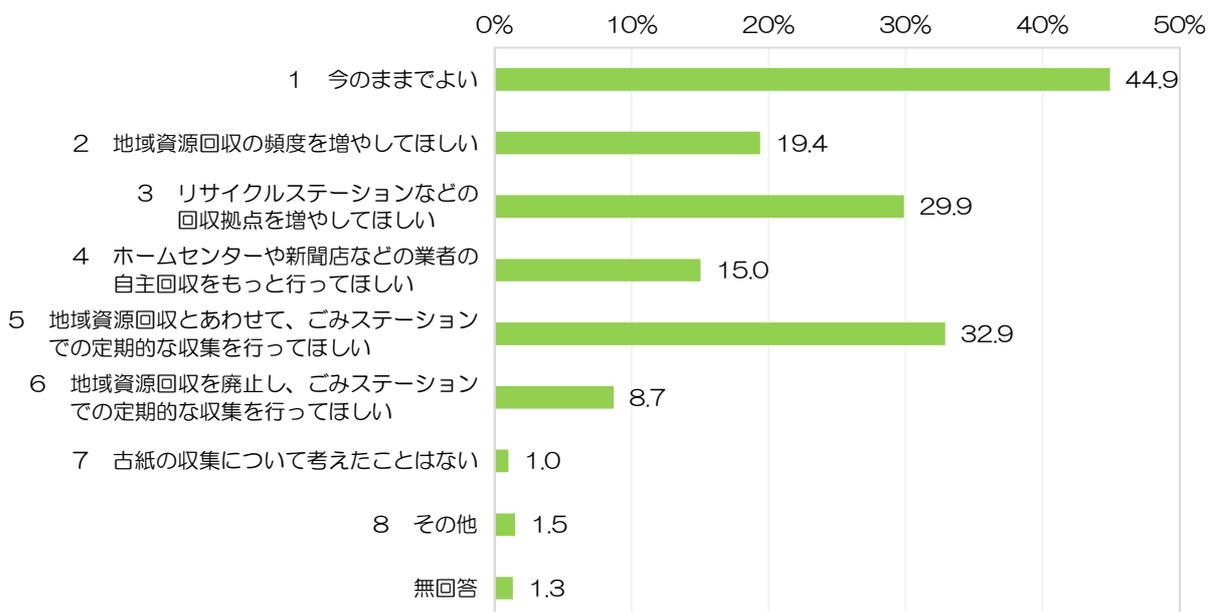
「地域資源回収に出している」と答えた人が圧倒的に多く、地域資源回収が市民に根付いていることが伺われます。

● できれば古紙を資源として分別できるかについて【主なもの2つ】



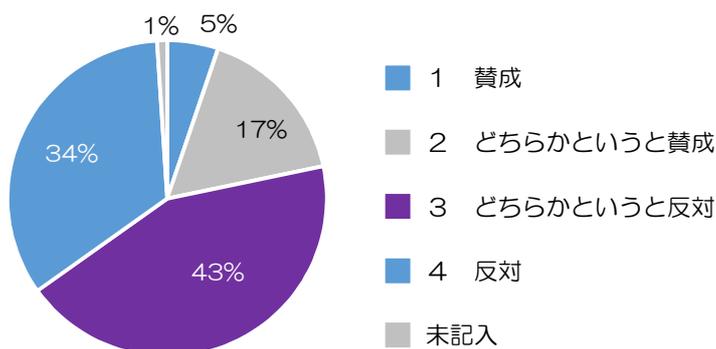
資源である古紙をもやすごみとして出している人の中で、約7割の人がステーション収集（行政回収）を望んでいます。また、約4割の人が、何が古紙かが分かれば分別すると答えており、古紙の分別に関する周知啓発を推進する必要があります。

● 古紙の収集方法について【あてはまるもの全て】



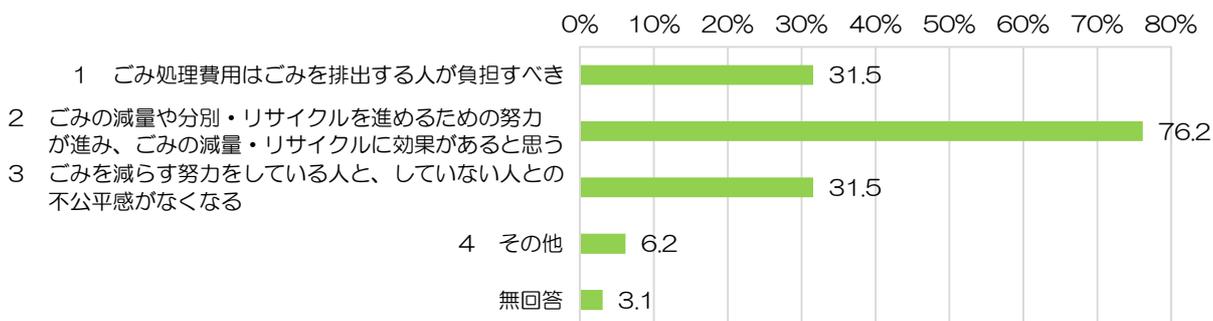
「今のままでよい」と答えた人が約4割を占める一方、「地域資源回収とあわせてごみステーションでの定期的な収集を行ってほしい」と答えた人も3割を超えており行政回収を望む市民が一定数いることが分かります。

● 家庭ごみの有料化について【あてはまるもの1つ】

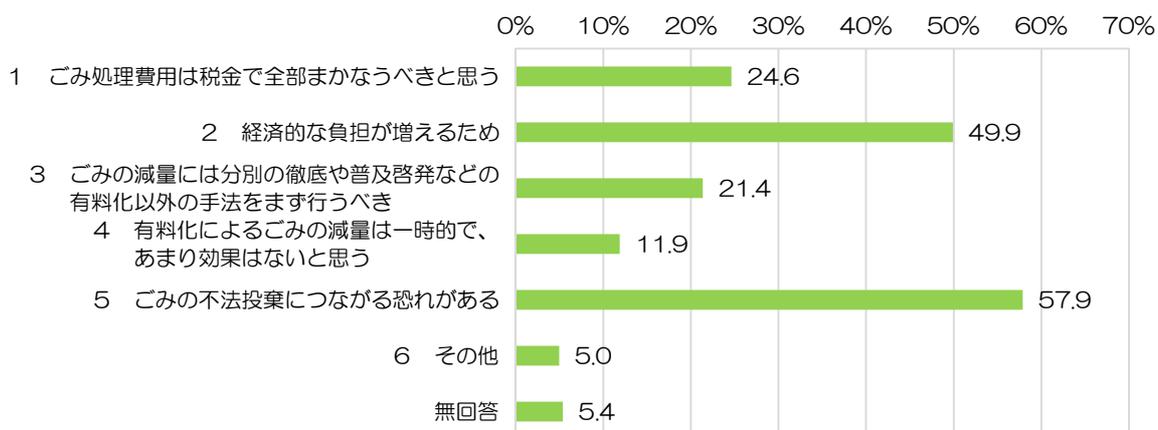


「どちらかという反対」「反対」と答えた人が合わせて約8割と大半を占め、多くの市民が家庭ごみの有料化には否定的な考えを持っていることが伺えます。

● 家庭ごみの有料化について賛成・反対の理由【主なもの2つ】



家庭ごみの有料化について賛成の意向を示した約2割の人のうち、「ごみの減量・リサイクルに効果がある」と答えた人が約7割にのびります



反対する理由として「不法投棄につながる恐れがある」と答えた人が約6割と多く、環境の悪化を不安視していると考えられます。また、「経済的な負担が増えるため」が次いで多く、経済的な負担が増えることを不安視していることが伺われます。